

「Debian パッケージの作り方 (2) – debian/rules を読む –」

大浦 真 (ohura@debian.org)

1 はじめに

テーマ debian/rules ファイルを読んでみる。

題材 hello-debhelper パッケージのソースパッケージ。debhelper の簡単なサンプルになっている。

2 debian/rules とは

- Debian パッケージを作るための手続きを記述したファイル。
 - makefile になっている。
 - 一行目は '#!/usr/bin/make -f' となっていなければならない。
 - 最低限、clean、binary、binary-arch、binary-indep、build の五つのターゲットを含んでいなければならない。
 - 必須のターゲット以外は自由に利用していい。
- build ソースパッケージの設定とコンパイルを行うためのターゲット
- binary、binary-arch、binary-indep バイナリパッケージを作るためのターゲット。binary-arch は、アーキテクチャに依存したパッケージ、binary-indep は、アーキテクチャに依存しないパッケージを作る。binary はその両方のパッケージを作る。
- clean バイナリパッケージの作成後、ソースパッケージを元の状態に戻すためのターゲット。
- install ソースパッケージのコンパイル後、規定の位置にファイルを置くためのターゲット。build ターゲットで作成されたファイルは一旦、debian/\$(package)/ 以下にインストールされる。
- configure ソースパッケージの設定を行うためのターゲット。
- get-orig-source オリジナルのソースパッケージを取得するためのターゲット。あまり知られていない。
- それぞれのターゲットを実行するための手助けをする debhelper という一連のスクリプトがある。
 - 全て dh_ で始まる名前の perl スクリプト。
 - debhelper(7) にスクリプトの一覧がある。
- dh_clean ソースパッケージの中のいらぬファイルを削除する。
- dh_installdirs debian/\$(package)/ 以下に必要なディレクトリを作成する。
- dh_installdocs、dh_installchangelog usr/share/doc/ 以下にドキュメントや changelog をインストール。
- などなど。

3 参考文献

- Debian Policy (<http://www.jp.debian.org/doc/debian-policy/>) 「4.9 Main building script: debian/rules」